

卷頭言

社会が大きく変わる
変化の激しい社会への適応

同窓会会長
教育後援会会長

高橋伸治
今村泰治

2025年全学改革

・教学改革・第3期中期経営計画が本格始動！ 学校法人千葉学園理事長

・今こそ原点に帰り、大学の在り方を考える 千葉商科大学第9代学長

・自らの成長を最大化できるカリキュラムに 大学本部長・入学センター長

・広がりと厚みのある学び 基盤教育機構新機構長

・一人ひとりの未来を築く商経学部 商経学部新学部長

・時代の要請に応えて、他大学に比類のない 総合政策学部始動します 新学部長

・治道家の精神を備えたサービス創造人材の 育成をめざして 人間社会学部新学部長

・SDGsへ貢献する学びを地域とともに 人間社会学部新学部長

・人も社会も自然も持続可能な、よい状態をめざして 人間社会学部新学部長

・時代を超えて求められる力を培う 千葉商科大学付属高校第6代校長

・効率的で充実した学生生活を 組合政策学部新学部長

・会員法・金融商品取引法・資格・検定と日経新聞・就職活動を結びつけた学習！ 商経学部教授

・体育会 硬式野球部「結果で恩返しを！」 商経学部経営学科4年

・文化団体連合会 演劇研究部「あゆみとおもい」 商経学部経営学科3年

・学生自治会本部 国際教養学部3年

・大学祭常任委員会「第74回瑞穂祭～彩～」 高井宏章

・丸 夏実 小杉亮一朗

・二年生・イベント 高橋雅也

・国際交流の現場から 大村和喜

・挑戦と共に築くCUの国際化－国際センターの道のり 丸 夏実

・キャリア支援センター ニュース 高橋雅也

・国際交流の現場から 大村和喜

・挑戦と共に築くCUの国際化－国際センターの道のり 丸 夏実

キャリア支援センター長

川瀬功

38

CUCレポート

国際センター長

橋本隆子

35

国際センター長

橋本隆子

30

学生活動紹介

商経学部経営学科4年
商経学部経営学科3年
国際教養学部3年

高橋雅也
大村和喜
丸 夏実

26

ゼミ紹介

商経学部経営学科4年
商経学部経営学科3年
国際教養学部3年

高橋雅也
大村和喜
丸 夏実

26

■ 第215回簿記能力検定上級 合格／ほか

高橋雅也
大村和喜
丸 夏実

24

22

■ ニュース・イベント

高橋雅也
大村和喜
丸 夏実

20

18

■ 第215回簿記能力検定上級 合格／ほか

高橋雅也
大村和喜
丸 夏実

24

22

■ 国際交流の現場から

高橋雅也
大村和喜
丸 夏実

26

27

■ 国際交流の現場から

高橋雅也
大村和喜
丸 夏実

24

27

■ 地域連携推進センターニュース

千葉商科大学と市川市の連携等に関する包括協定推進協議会／ほか

■ 学生開発商品のご紹介

学生開発商品を「道の駅いちかわ」で販売中！

■ The University DINING レポート

UDログイン in 「わかわ」防災知識をゲットする冒険だ！／ほか

■ ライブラリーニュース

「第9回書評コンテスト」表彰式開催

■ 文化団体連合会・体育会所属各部の活動状況

■ 大学創立100周年各分科会からのお知らせ

■ 特別企画 創立100周年にむけて

■ 教育援授会活動 保護者LINEについて／地区懇談会・保護者会開催報告／ほか

■ 活躍する卒業生 二足の草鞋～ボクシングに生かされて～

株式会社E-BOX代表取締役

廣輪一香

社会連携推進課

伊藤雅敏

64

58

56 54

52 46

44

43

41

■ 本部からの報告

■ 支部からの報告

■ 同窓会・その他の報告

■ 同窓生のお宿・お店紹介「inimmo(イニム)」

CUC経営者会議ニュース

■ CUC経営者会議

東北ブロック交流会・講演会を開催／

学生パンチャー食堂新店舗応募によるプレゼンテーション大会について／ほか

ラジオ体操の普及でSDGsに貢献を

戦後80年 東鴨高商学徒の報告

～初代校長 遠藤隆吉の時代～

MVPプレイヤー大谷翔平と大学初年次教育

クリティカル・マーケティング—これが変だよ!! マーケティング

▼第54期・第55期同窓会費納入者一覧 93

▼同窓会役員および支部事務局一覧 104

106

青森・長沼弘次／橋本・斎藤勉／静岡・沼本辰也／
長野・佐藤千枝／愛知・大庭昇／山梨・藤原進
瑞穂会・早川政美／教育研究会・太田三郎／49会・鈴木隆夫
平野栄二／
平15 経済 清水篤

83

79

74

68

64

58

56 54

52 46

44

43

41

社会が大きく変わる

高橋 伸治 ● 同窓会会長
(昭52商)

今、海外で活躍しているスポーツ選手はたくさんいます。日本人の存在感が社会のなかで大きくなりました。しかし、ひとむかし前に、海外に渡った選手たちに対する世界の評価は、「日本人選手のワザは上手だけれど、まわりが見えていない」というものでした。チームとして機能するよりも個人のプレー向上を目的とした教育方針が、世界より遅れをとつたと思っています。日本の教育は「読み、書き、そろばん」が中心で、他人との交わりを必要としないで評価が決まってしまう型になっています。世界の教育は伝達能力が一番大切で、幼年期からコミュニケーション重視の教育論です。ですから、日本人のほとんどが、周囲がどのように考え、行動しているのかを考えずに活動しています。ここに日本人の生産性の低さがあると思っています。

私は32年間の議員生活で、先輩から「何を発言し

てもいい。でも、あなたの発言で、他の全議員がどう発言をし、行動をとるのかを見極める必要がある」と教えられました。あの先輩の一言で、本当に有意義な議員生活を過ごせました。

急激なりモートワークの導入で、教育関係も大きく変化しました。本学も世界中で受け入れられる新たな学園環境への模索も始めなければなりません。また、「社会が必要とする大学」としてのキャンパスライフの在り方とどのような整合性を持たせるのかが楽しみです。学園のような価値観の違う人たちが集まる場所には「理念」が必要です。「商大らしさ」を確立し、その理念のもとに、情報格差を生まない学園創りをお願いいたします。そのなかで、今年は、「同窓会も周囲が見える組織づくり」の確立をめざして役員一同、邁進してまいります。



千葉商科大学
同窓会
公式Webサイト
二次元コード



二足の草鞋 〜ボクシングに生かされて〜

遠藤一充

株式会社E-BOX 代表取締役
平成19年 商経学部経済学科卒業



私は銀行に勤務する一方で、プロボクシングジムの運営をしています。せっかくの機会ですので、この少し変わった半生を振り返りたいと思います。

【小学～中学】

小学5年生の冬、全身麻痺の「ギランバレー症候群」で寝たきりとなってしまいました。最近ではドジャースのフリーマン選手のお子さんが闘病しているということで話題になった難病ですが、幸いにも数ヵ月で退院することができました（この約1年後に再発するのですが、今は健康体です）。

【高校～大学】

中学時代はしっかり反抗期を迎え、両親には迷惑をかけました。そんなある日、テレビで見た辰吉丈一郎選手のボクシングに一目惚れをします。早速、両親にボクシングの強豪高である習志野高校（以下習高）に行きたいことを告げると、「また病気をしたらどうするんだ。勉強をしながら、ボクシングは趣味でやりなさい」と説得され、八千代松陰高校に入学することとなりました。

高校にボクシング部はなく、母が見つけた地元の



ボクシングサークルに入部しました。そこで習高ボクシングに所属している1人の青年に出会います。彼の名は栗生隆寛。後の世界2階級制覇チャンピオングです。

栗生君の紹介で土日は習高の練習に、さらには栗生君を真似て右利きのサウスボーン構えを身に付け、少しづつ私のボクシングの土台が作られていきました。

高校を出たらすぐにでもプロボクサーなりたかった私ですが、両親から「そこまで言うならプロになればいい。ただ、大学は卒業しなさい」と、またしても学業との両立を義務付けられます。結果、千葉商科大学へ入学することとなり、立地的に通いやすい船橋ドランジムに入門することになりました。

学生プロボクサーとして、デビューから4連勝と良いスタートを切りますが、就職活動を機に現役は引退。手当たり次第面接をして千葉興業銀行に入行しました。

【就職と二足の草鞋】

入行後はキャリアを描けず、なかなかモチベーションは上がりませんでしたが、入行2年目の春に

転機が訪れます。ふと見た桜がくすんで見えたのです。現役時代、自分の心の弱さに勝つて見る桜は、本当に綺麗でした。「桜が綺麗に見えないなんて、人生を生きているとは言えない。2度の入院生活から回復し、健康な体があるのにボクシングを辞めてはいけなかった。やりきらないと一生後悔する」と退職を決意します。

早速上司に相談すると、「プロボクサーを副業にして、仕事と両立できないのか」と、全く予想だにしないアイディアが返ってきました。支店長のご子息が前述の栗生君と同級生という偶然も重なって、話はスマーズに進み、最終的には銀行に副業を認められました。

復帰戦からも連勝を続けて日本ランディングに入りますが、後の日本ランディング1位となる若手のホーリーに敗戦。負けたら引退という自分との約束もありましたが、何よりやりきった達成感が大きく、2度目の引退をすることにしました。試合の応援がきっかけで仲良くなつた妻ともこのタイミングで結婚をしました。

【転職と二足の草鞋】
現役引退後は2人の子宝にも恵まれ、仕事に没頭。より大きなステージを求めてメガバンクに転職しました(9年以上働いた前職に不満はなく、二足の草鞋をサポートしてくれた事には感謝しかありません)。

転職先でも充実の日々を送っていましたが、ここでもう一度転職を迎えます。長男がボクシングをやりたいと言うのです。引退後はジムから遠ざかつていた私も、週末を中心トレーナーとして船橋ドランジムに戻り、長男と会員さんの指導が始まりました。

いざ、真剣に指導を始めると、ボクシングの素晴らしさを後世に伝えて行きたいと感じるようになります。「3年以内に物件を見つけて自分のジムを出そう」と、事業計画書の作成を始めました。

しかし、運命とは不思議なもので。2024年に入りジムの会長が体調を崩され、物件をスケルトンで引き払つてジムを閉鎖することになつたのです。私は今しかないと思い、信頼しているトレーナー達の協力を得て法人を設立。同じ物件を借り直し、貯

金をはたいてフルリリフォームを行い、新ジムをオーブンしました。旧ジムのスタッフと会員さんがほとんど残ってくれたこともあり、良いスタートが切れました。

【これから】

今も銀行の仕事をしながら、週末を中心にジムに行きます。この「二足の草鞋」という生活があるのは両親に文武両道を意識して育てられたからだと思っています（残念ながら勉強はできませんでしたが）。

そして、もう1つは出逢いに恵まれたことです。現役と仕事の両立を支えてくれた上司、ジムを支えてくれるスタッフや会員さん、そしてボクシングが繋いでくれた家族もです。この寄稿もジム生のご親族が千葉商科大学に勤務していることがご縁でした。

先日、ライトヘビー級でデビューした当ジムの深井優人も後輩、スポンサー企業の1社である株E-T-E-Cの

野老社長も同窓であり、大学の縁も力強い限りです。これからも一期一会を大切にし、地元に愛されるジムを作りたいと思っています。卒業生の皆さまもぜひジムにお立ち寄りください。皆さまとのご縁も楽しみしております。

